

13:15-16:40 Ⅲ.パネルディスカッション 概要

「治療を受ける患者の心をチームで支える」

座長：米村 雅人（国立がん研究センター東病院 薬剤部）

小澤 桂子（国立がん研究センター がん対策研究所 サバイバーシップ研究部）

1) 「診断期および治療期の患者さんの心理状態とこころのケアについて」(40 分)

演者：岩田 有正（国立がん研究センター東病院 精神腫瘍科）

本講演では、がん患者の心理的苦痛を、がん経過の各段階（診断～終末期）に応じて整理し、特に治療中～緩和ケア移行期の心理支援の重要性に焦点を当てる。治療中は支援が届きにくくなる一方で、心理的支援の要所でもある。苦痛は全人的であり、定期的に拾い上げて多職種で共有・対応することが必要である。本講演はその基本的視点を総論的に示し、続く講演での職種別の具体的支援へと橋渡しを担う。

2) 「がん治療中の患者の心のケア 薬剤師の立場から」(30 分)

演者：阿部 健太郎（国立がん研究センター東病院 薬剤部）

がん治療中の患者は、心理的苦痛や化学療法の有害事象に悩まされることが多い。本セッションでは、患者の心理的变化および化学療法による有害事象が心に与える影響を学び、薬剤師が担う心のケアの役割と、多職種連携による支援方法を理解する。

3) 「がん治療中の患者の心のケア 看護師の立場から」(30 分)

演者：河村 奈緒（静岡県立静岡がんセンター 看護部 専門外来）

がん治療中の患者は、治療の副作用や治療効果への不安、将来の不確実性に加え、社会的・家族内役割が果たせない苦痛や経済的負担など、様々な気がかりを抱えている。これらは治療継続の妨げや QOL 低下を招く要因となる。看護師の立場から、意思決定支援時の心のケアや副作用へのセルフケア支援を含め、患者の心に寄り添い、多職種との連携や患者中心の視点を踏まえた継続的かつ個別性のある看護実践について検討する。

4) 「がん治療中の患者の心のケア～社会で生きるがん患者のこころを支える～」(30 分)

演者：品田 雄市（東京医科大学八王子医療センター 総合相談・支援センター 医療福祉室）

がん治療が必要となった患者の心理社会的側面にはどのような変化が生じるだろうか。

医療ソーシャルワーカーの立場からがん患者の Well-being を考えた時、患者がこれまでの人生の中で得た経験とがん体験との結びつきを社会との関わりの中から見出すことが意義を持つこともある。

患者のウェルビーイングと発展に有用な、患者が保有する内的資源と患者を取り巻く環境にある外的資源に着目するケアの総体を「心」をキーワードに提示してみたい。

5) 「積極的治療終了を迎える患者の心のケア」(30 分)

演者：山下 礼（東京科学大学病院 がん先端治療部 緩和ケアセンター）

一般的には、がんと診断される前から、当事者の気持ちは揺れ動くと言われている。積極的治療をしている時の心理状態から、積極的治療が終了し BSC (Best Supportive care) alone へ移行する際の心理状態はどのように変化するものなのだろうか。

気持ちの変化には個人差もあり、サポーターの有無やその時の体調にも大きく影響される。また、その当事者の傍にいる家族も大いに気持ちが揺れ動くものである。

患者・家族の心のケアとは、具体的にどのようなことがケアになるのか緩和ケアに携わる心理士として、皆様と共に考える時間にしたい。

※総合討論あり